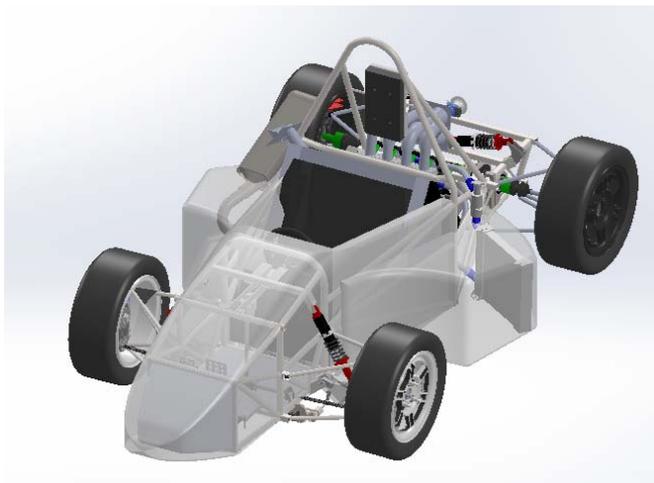




第12回大会を終えて

岐阜大学フォーミュラJSAEプロジェクトGFR
Gifu University formula JSAE project GFR
<http://comb.mech.gifu-u.ac.jp/formula/>



Presentation プレゼンテーション

マシン名: **GFR014**

昨年度は、シャーシダイナモやエンジンベンチで最適な燃料マップを作成することで、マシンの自由な加速及び高速走行が可能になりました。そのため、これまでの低負荷の状態では現れなかった問題が顕在化ようになりました。特にエンジンの出力を伝達するパーツの破損が多く見られ、昨年度エンデュランス審査では、ドライブシャフトの破断により完走することができませんでした。

そこで、GFR014車両の設計コンセプトを「信頼性」とし、エンデュランス審査を完走することのできるマシンを目標に、昨年度までの静的、動的種目の点数に、エンデュランスを完走させることで、上位入賞をめざしました。

「信頼性」を達成するために、昨年度何度も壊れてしまったドライブトレインを、2段減速から1段減速へ、ドライブシャフトを中空から中実へ変更等々、重量増となりますが、途中で破損してしまうことなく最後まで走りきれるようなマシンにすることをチーム全体で心がけ、設計製作を行いました。

Participation report 参戦レポート

設計、製作をするノウハウを新メンバーへとうまく伝承できず、両者ともに時間がかかり、予定していたシェイクダウンの日程を大幅に遅らせてしまい、7月の中旬となってしまいました。走行機会も非常に少なくセッティングをすることができないままに大会を迎える事になってしまいました。

大会では、静的審査への対策が不十分であり、コスト、プレゼンテーション、デザイン全ての審査で、昨年度よりも点数を落とす結果となってしまいました。このような結果となった原因には、事前資料の出来が大きく関与していると思いき、来年は高得点を取れるような事前資料の作成を心がけていこうと思えます。

技術車検は、前日までに対策を行いました。再車検となってしまいました。他にもブレーキ、騒音テストでも通過するのに時間がかかりましたが、大会2日目終了までに車検全てを通すことができたのは良かったと思います。

動的種目では、アクセルレーション、スキッドパッド、オートクロスを走ることができましたが、エンデュランス未出走という結果に終わりました。出走まであと2校、オートクロスが1秒速ければ…と考えると非常に悔しさの残るものとなってしまいました。今年度自分たちの行動が積み重なってこの結果であると考え、この悔しさをバネに来年こそ上位進出ができるよう頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重な経験をできる場を与えていただきました。また、活動を支えていただきましたスポンサー、大会関係者、大学関係者、OBの方々にはこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の総合結果・部門賞

●総合 53位

Profile チーム紹介・今までの活動

岐阜大学フォーミュラJSAEプロジェクトGFRは2005年に創設されました。第11回での大会成績は46位という結果でしたが、アクセルレーション6位という、プロジェクト初の動的種目10位以内入賞を達成できました。エンデュランス完走を達成し、点数を伸ばすためGFR013を改良し、第12回大会に臨みました。

Team-member チームメンバー

堤 貴文 (CP)

井原 禎貴 (FA1)、菊地 聡 (FA2)、大矢 武明、岡田 和樹、面川 真輝、川田 貴斗、久野 あい理、熊谷 匠起、寺嶋 薫、坂野 達也、八木 将起、安藤 健斗、伊佐地 範之、奥山 翔太、國井 翔太、倉田 将成、黒田 豪、榊原 叶子、清水 大智、古橋 未悠

Sponsors スポンサーリスト

スズキ、樺葉鉄工所、シー・シー・アイ、光製作所マキタ、大同DMソリューション、ミスミ、日信工業、古河電池、F.C.C.、鍋屋ハイテック、野口塗装、岩田製作所、大同工業、近藤科学、NTN、深井製作所、服部溶接所、キノクニエンタープライズ、エービーシー、ソリッドワークスジャパン、日本発条、トリニティ、住友電装、岐阜キヤー工業、ツゲプラセス、岡本・ナベヤ、オスロ産業、太平洋工業、岐阜車体工業、トヨタ、アルテアエンジニアリング、小熊製作所